

令和３年度第１回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

令和３年８月４日（水） ９時３０分～１１時

II 開催場所

広島市役所本庁舎１４階 第７会議室

III 出席者

１ 委員 ２０名中１８名出席

大田委員、香川委員、倉石委員、齋木委員、下岡委員、砂橋委員、砂本委員、高畑委員、田川委員、玉田委員、出口委員、西野委員、服部委員、麓委員、本川委員、松岡委員、松田委員、渡部委員

（欠席：大前委員、木村委員）

２ オブザーバー ３名中２名出席

木下オブザーバー、野依オブザーバー

（欠席：三上オブザーバー）

３ 事務局（市）

市民局長、スポーツ振興課長、健康福祉局障害福祉課長、健康福祉局健康推進課長、教育委員会指導第一課長、教育委員会指導第二課長

IV 公開・非公開の別

公開

V 傍聴者

０人

VI 会議内容

１ 開会

２ 会長及び副会長選出

全会一致で会長に服部委員、副会長に玉田委員が選任された。

３ 議事

(1) 「広島市スポーツ振興計画」の主な取組状況について（令和２年度実施報告）

(2) 令和３年度の主なスポーツ推進施策及び予算について

(3) 令和３年度以降のスポーツ振興のための取組について

４ 閉会

VII 会議資料

- ・ 令和３年度第１回広島市スポーツ推進審議会次第
- ・ 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

- ・ 令和３年度第１回広島市スポーツ推進審議会配席図
- ・ 議事関係資料
 - 議事資料１－１：「広島市スポーツ振興計画」に掲げた推進施策の主な取組状況について（令和２年度）
 - 議事資料１－２：数値目標の進捗状況と今後の方向性について
 - 議事資料２－１：「広島市スポーツ振興計画」における令和３年度の主な取組について
 - 議事資料２－２：令和３年度スポーツ振興関係予算について
 - 議事資料３－１：広島市スポーツ振興のための取組（令和３年度以降）
 - 議事資料３－２：令和３年度以降数値目標の整理
 - 参考資料１：スポーツ再開支援実施状況について
 - 参考資料２：スポーツに関する意識調査の分析結果について

VIII 主な発言要旨

１ 議事１及び議事２について

○ 服部会長

令和２年度の実施報告について意見・質問等があればお願いします。
学校施設開放事業については、今年度開催されているのか。

○ スポーツ振興課長

今年度は５月１７日から６月２０日まで全施設休館に合わせ学校開放も中止し、８月３日から９月１２日までの間については、通常なら午後９時まで利用できるが、これを午後８時までの時間短縮としている。

○ 服部会長

他に意見・質問等ないでしょうか。それでは令和３年度の主なスポーツ推進施策及び予算について意見・質問等があればお願いします。

○ 松田委員

資料の６ページ目、議事資料２－１について、令和３年度の主な取組の２番目、学校における体育・スポーツの充実、主な施策としては子どもの体力向上等という観点で、部活指導員を市立中学校６４校１４３名に配置するとして９，４００万円以上の予算を構えている。ここでの部活指導員というのはこういった資格、実績を持つ人なのかを教えてください。

○ 指導第二課長

特に資格等について定めはない。１４３名の内訳だが、体育系、あるいは文科系の部活もあり、全体の３分の２くらいが体育系の部活の指導に当たっている。バスケットボ

ール、サッカーといったものから多く取り組んでもらっているところだ。指導者の人選等については、例えば学校でこの人に指導に当たってほしいという候補があれば教育委員会の方で面接し、位置付けとしてはパートタイム会計年度任用職員として指導に当たっていただいている。

○ 松田委員

今説明いただいた2番目の学校における体育・スポーツの充実というのが全般的な部活のサポートといった取組で、子どもの全般的な体力の向上が目的になっていると見させていただいた。一方で3番目の競技力の向上で、ジュニアの育成強化というのと、一つ目が柔道・BMXと競技が限定されていて予算としては100万円となっており、二つ目の624万円の予算は強化合宿・練習会の費用の一部の助成となっており、直接的な指導者であるとかジュニアの競技力を伸ばすための指導に充てられる予算が、柔道・BMXの初心者向けの他にはない。中学生は体も心も一番成長する時期であり、その時に良い指導者から良い指導を受け、その競技の基礎などを学ぶことによって、非常に競技力が上がるということがあり、特に中学生が重要な時期だと思っている。小学生も同様であり、若ければ若いほど指導者による影響力も非常に大きい。そのため、全校あるいは多くの学校での実施は難しいと思うが、広島に多くいるシニアのトップリーグを引退した人を上手く活用し、強化校のようなかたちで指導を受ける機会を設けていくという道筋も考えていただければいいかと思う。例えばJTには、JTサンダーズ広島の選手やOBが正社員でいる。土日にはトップスバレーボール学校等で子どもたちに教えているが、やはり子どもたちは吸収力が早いのでとても楽しいと言う。競技に対する恩返しや裾野を広げていきたいという意味で、メジャー競技だけでなくマイナー競技も含めて広島には多くのトップシニアのチームがあるので、是非そのOBの活用も検討いただければ、より広島全体が広島市を中心に盛り上がっていくかと思う。

○ 服部会長

いわゆるスポーツ指導のための資格といったものがこれから問われる時代になってくと思うが、そういう意味ではトップス選手等も引退するとその後のキャリアや生活をどうするのかという問題は全国的に出ており、そういった取組も考えていただければと思う。それからジュニア育成の方はもっと幅広くという意見だったが、順次検討いただければと思う。

○ 出口委員

今の意見に重なるが、広島大学のスポーツセンター長をやっていて、今年度の文科省の委託事業に応募した中に、文科省としてはオリンピックであったり、トップアスリートを教育現場に活かさないかという委託事業があった。結局、申請したものの外れたが、そのやり取りの中で、文科省にトップアスリートを教育現場に活かさないかという思いがかなりあるように感じた。例えば教員免許を持っているアスリートあるいは元アスリ

ートの他、仮の免許を出せるようなことも文科省の方が仰っていた。広島にはトップスを始め多くのプロスポーツや社会人のトップスポーツの団体があり、人材が埋もれている。そういう人たちを学校現場で活かさない手はないのではないかと思う。それに向けて、例えば広島大学であったり、広島国際大学であったり、スポーツ系を専門に教えている大学も多くあるので、そういったところで教育学やスポーツ医科学を勉強しながら、現場で経験されたノウハウ等を子どもたちに伝えるというのは本当に良い機会だと思うので、是非そういったことを検討していただきたい。

もう一点、せっかくオリンピック・パラリンピックの開催された年なので、その時に盛り上がった、関心があるような競技を広めていくということで、私の専門は柔道で、資料に柔道及びBMXの体験教室があるが、それ以外の最近流行っているスケボー等の競技もこれを機に広めていけば、広島からそういう競技のアスリートが出てくるのではないかと思うので、その辺りは柔軟な対応ができればより良いのではないかと感じた。

○ 服部会長

全国的に知識や技能を持ったスポーツの指導者が不足しているというのはよく言われていることで、そういうことでは広島には色々な種目のプロ選手等がいるので、その方々を上手く活用していく方策がこれから考えられていけばいいのではないかと思う。

○ 砂橋委員

私どものレクリエーション協会は、ねんりんピックの予選なども少し携わったり、スポーツ協会と色々なスポーツ事業を展開している中で、この資料2-1の項目立ての予算のバランスを見た時に、3の競技力向上の障害者スポーツの支援事業の予算が、他と比べて、項目立てしている割には金額が少ないと感じる。過去の流れもあると思うが、もう少し金額が増えると障害者の方も大会に参加しやすくなるかと思う。安い賃金で働いている方もいるため、こういった補助が厚くなるとありがたい。

○ 服部会長

ありがとうございます。事務局の方からお願いします。

○ 障害福祉課長

資料に記載の予算は、障害者スポーツの選考に係る部分が主である。その他、健康づくり教室等で障害をお持ちの方等の健康づくりを含めたスポーツ振興を行っている。そうした中で、より障害者スポーツ自体を利用いただきやすいように、予算を含めて今後検討を進めてまいりたいと思っております。

○ 服部会長

予算の配分についてもまた検討いただければと思う。他に意見・質問等ないでしょうか。それでは、最後になるが令和3年度以降のスポーツ振興における取組について事務

局の方からお願いします。

2 議事3について

○ 服部会長

これについて何か意見・質問等ありませんか。

○ 松田委員

私はトップスなので4番目について意見を述べたいと思うが、これまでトップスに加盟するチームの試合を1年間1回以上ということで、非常に閉鎖的というか限定的だと私から見ても思った。今回、長期目標にしても短期目標にしても、まずトップスはNPO法人なので加盟されるかどうかは法人の目的あるいは理念に賛同いただけるかどうかというのがベースにあるため、トップスという枠を外して加盟していない競技を含めるというのは大賛成だ。統計局が平成28年に全国のスポーツ観戦の実態調査をした数値によると、いわゆる生で観戦した県民の率は広島県が全国で圧倒的な1位である。当然カープの影響が大きいが、広島というのは全国で圧倒的に生で観戦する率が高い。ただ、メジャーな競技に集まりがちというのは実態上あると思う。残念だと思っているのが、例えばバレーでいうと女子のV2、広島では大野石油広島オイラーズがホームゲームを猫田記念体育館でやっている。同じ日に中区のスポーツセンターでハンドボールの試合があったりする。時間が違い、歩いて行ける距離で、とてもアクセスも良く、色々な競技を生で見る機会が多くあるにもかかわらず、マイナーな競技になればなるほど、いつ、どこで試合が行われているかというのを身近で知る機会が少ない。コアなファンは各チームのホームページにアクセスしていつどこで試合があるから見に行こうとなるが、裾野を広げようと思った時には今日どこかで試合あるかなと思っている人が情報に接することができるような、きっかけづくりを考えていただくことによって色々な競技の素晴らしさがより伝わるのではないかと思う。私もトップスの今の役職を務めるようになって加盟チームは全部見たし、例えば九人制バレーボール女子のトップリーグのマツダのクロス・ナインなども見たが、どの競技も生で見ると圧倒的に迫力があり、感動も違う。テレビでは伝えきれないものが生で見ることによって伝わってくる。こうしたものをより多くの市民に伝えるための手段というのを検討いただければ、より色々な競技の魅力が一人一人の市民にお伝えいただけるのではないか。トップスとしてもその課題感はあるが、8月下旬からはトップスのホームページの一番上の画面に加盟チームの広島県内であるホームゲームの情報を見られるように対策をするが、今のこの時代において、ホームページだけで良いのかと思っているところだ。何かもっと良い、スポーツ全般好きだけど、どこで何があるかよく分からないという、少し受け身な人でも気軽にアクセスできるものがあるだけでも裾野が随分広がるのではないかと思うので、是非、まずは広島市のホームページから始めていただいて、特にマイナー競技について、周知、いつあるというのに力を入れていただけると本当にありがたい。

○ 服部会長

ありがとうございます。事務局の方からお願いします。

○ スポーツ振興課長

6 ページの令和3年度の主な取組の一番下、トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興のところ、トップスの観戦率を高めようということで、トップススポーツ観戦ラリーとして、これはトップスの協力を得て選手等のサインが入ったユニフォームや実際選手が使った競技用具等を提供いただき、何試合か観戦していただくと抽選でそれが当たるといような事業について条件を緩和したり見直しを行っているが、今日頂いた意見のような視点についてもっと考えていきたい。

なお、国際大会等も対象に加えた背景としては、国際大会を誘致し、市民の方が生で高度な技術を見るというのは、競技者にとってもそうでないファンにとっても意義があると思っているので、国際大会・全国大会の誘致に努め、残念ながら中止にはなったもののウイメンズ国際テニスや、U20・U18の陸上大会といった大会の誘致にこれまでも努めており、そういった大会をご覧になった方も加えたい、という視点で目標数値を設定している。

○ 服部会長

ありがとうございました。他にありませんか。

○ 出口委員

先ほどの話にあったように、例えば障害者スポーツという言葉がこの数値目標にはなかなか落とせないというか、それも全部含められたものだと思うが、特に広島市は平和都市として障害者に優しいというところを前面的に出すようなことをやっていった方がよいのではないかと。先ほどの予算のところも同様だが、ここには全くそういったものが出てこない、区別をせずに含まれていると思われるが、何かそういった目標があってもよいのではないかと。スポーツ王国広島の四本の柱の中にもそういったものが見えない、これも含まれていると思うが、その辺りが率直な感想だ。

あと一点、ボランティア活動というのが非常に難しい表現で、単純に「ささえる」という方がより広く受け止められるのではないかと。

○ 服部会長

ありがとうございます。他にありませんか。

広島は全国的にもスポーツをする人の割合が非常に高い数値を示しているのではないと思う。その中でいかにスポーツをしない市民、興味がない市民を取り込むかということにも繋がってくると思うが、いかに情報発信能力を高めていくかというのが一つ意見の中から伺えたことだったと思う。魅力をどう発信するかに関わってくるが、社会スポーツも競技力もレクリエーション含めてのスポーツ振興ということになるかと思

うので、そういった視点を持って努めていただければと思う。

議事としては以上だが、他に委員の方々から何か事務局への要望や意見があればこの場を出していただければと思う。

○ 西野委員

これまで私自身色々とスポーツに関わらせていただき、この度市民委員に応募させていただいた。コロナ禍で地域のコミュニティの場がどんどん減少しているのかと思うが、自宅で過ごす人も増えている中、コミュニティが難しくなってきた時期かと思う。ただ、今ならではということで、感染防止対策に取り組みながら免疫力を高めていくのにスポーツというのがとても役に立っていくのではないかと、健康づくりに重要なポジションとなるのではないかと。日々コミュニティで、共生社会の実現を視野に入れて、また先ほどから出ている平和都市広島ならではの心豊かな笑顔あふれる多様なスポーツコミュニティが実現していけばいいと日ごろ考えている。

また、私自身ハンザというヨットを使ったセーリングをしているが、これまで自分自身は山に住んでおり、海が遠い存在だった。しかしセーリングをするようになって意外と海は近いというのを感じている。また、障害のある人もない人も、子どもも高齢者も、男性も女性も、ヨットの経験の有無にかかわらず色々な人がこのハンザのヨットを楽しんでいる。ここ最近、観音でヨットをやっていたのでちょっと寄ってみたという人が来てくれて、大変嬉しいと思っている。今までハンザを知らなかったが気軽に参加してくれるようになった人や、昔ヨットをやっていたうずうずしたという人もいれば、舵を握るのも初めてという人もいて、本当に色々な方に来ていただくというのが嬉しい反面、先ほどから話題にでている、情報をもっと発信していかないといけないというのを感じている。

また、スポーツに関係ないかもしれないが、海を使わせていただいている以上海を綺麗に保たないといけないと感じている。今SDGs等でサステナビリティ、持続可能な計画ということで、海といった自然を使わせていただく以上、そこを綺麗に保たないといけないという思いだ。

○ 服部会長

広島は、海もあって山もあって色々な種目、スポーツが楽しめる場所ではないかと思う。今後広島スタイルというか、そういったことを重点的に浮き立てて行けるような企画ができれば面白いのではないかと。特に、全国のスポーツ実施を見ると、散歩やジョギングといった野外でのスポーツが多い。コロナで集団スポーツより個人種目に傾斜しているような状況になっているのではないかと。そういった中で、個人種目ができる環境、山・海も含めたスポーツ振興というのも今後大切になってくるのではと思う。

本日審議の中で議論いただいたことも含めて意見、提案などありましたら今月中に事務局の方までお寄せいただければと思う。本日の審議会以上で終了いたします。ありがとうございました。